

□海外文献紹介□

急性胆石性膵炎の病因と病態

Etiology and Pathogenesis of Acute Biliary Pancreatitis: *J. M. Acosta et al* (Surg 88: 118~125, 1980)

胆石性膵炎の原因として、乳頭部閉塞に伴う膵管内への胆汁の逆流(共通管説)が言われているが、結石の嵌頓を手術時に観察するのはまれであるため、この説は疑問視されている。著者らは1972年以降、条件が許せば発作後48時間以内に手術を行う方針をとり、本症の初期像を把握した。対象はそれ以前の症例も含む78例である。

手術時の結石の嵌頓は78例中49例にみられた。発作後48時間以内(平均30時間)に手術を行った55例中41

例(75%)に結石の嵌頓がみられたのに、4日以降では12例中3例(25%)にみられたにすぎなかった。76例に術中胆道造影を行い、その所見を4型に分類すると、(A)完全低位閉塞型20例、(B)完全低位閉塞で膵管への逆流がみられるもの11例、(C)完全高位閉塞6例、(D)部分閉塞10例、であった。D群では膵炎の程度は軽度であったが、他では差はなかった。結石が乳頭に嵌頓していた49例についてみると、膵病変の程度は発作から手術までの期間とよく並行し、24時間以内では浮腫、24~36時間では脂肪壊死と出血が主体で、膵壊死は37時間以降にみられ、48時間以降では大半例で膵の広範な出血や壊死がみられた。手術中あるいは糞便中から回収された胆石は2

~6mmで、胆嚢内結石と同質であり、造影で膵管逆流のあった例では3mm以下が多かった。胆汁感染ありの47%、なしの27%で膵炎は重症であった。発症前の過食は63%にみられたが膵炎の重症度と無関係であった。48時間以内手術例の98%が完治した。

上記の結果によると、胆石性膵炎の発症には膵液流出の機械的閉塞が最も重要な因子と思われる。胆嚢から移動した結石は小さいほうが膵管を閉塞しやすく、また腸管内に脱落しやすいと考えられる。閉塞48時間以内であれば膵病変は可逆性である。過食は閉塞の誘因となり、感染は増悪因子として働く。

(関東通信病院消化器内科

(船富 亨 抄)